

### 【口頭報告】

石井太・是川夕・大津唯：“Decomposition Analysis by Cause of Death for the Shifting and Compression Features of Japanese Mortality”

是川夕：“Fertility of Immigrant Women in Japan”

### 【ポスター報告】

福田節也・余田翔平・茂木良平：“Three Decades of Educational Assortative Mating in Japan: A Micro Data Analysis of Population Census 1980-2010”

菅桂太：“Career Interruptions Among Married Women on the First Marriage and the First Childbirth in Japan: Patterns and Covariates”

鎌田健司：“Diffusion Process of Fertility Transition in Japan 1920-2010 Spatial Analysis Using Econometric Panel Model”

是川夕：“A Socioeconomic Status of Immigrant Women in Gendered Migratory Processes”

(余田翔平 記)

## 特別講演会 (Joel. E. Cohen 教授)

2017年5月15日(月) 13:30~15:00, ロックフェラー大学 (Rockefeller University) 及びコロンビア大学 (Columbia University) 教授の Joel. E. Cohen 教授による特別講演会が, “Variability over time in age-specific mortality in industrialized countries including Japan: Taylor's law meets Gompertz, Makeham, and Siler” の題目で行われた。人口学以外にも生態学や数理生物学など多岐にわたる分野で活躍されている同教授であるが, この度はヒトの死亡率や生態学のデータに見られる Taylor's law を中心とした自身と共同研究者らによるこれまでの研究成果の報告である。Taylor's law とは各データの平均値と分散をそれぞれ対数軸とした平面にプロットした場合, そこに直線の関係が見られるという経験則である。もしデータ同士が完全にランダムである Poisson 分布に従うのであれば傾き 1 の直線として同平面上に表される。データ同士に法則性があれば傾き 1 からずれた傾きを持つ直線となるので, Cohen 教授の研究でこれまで得られた日本を含む工業国の死亡率を含めた様々なデータの法則性が議論となった。本講演には所内外から他分野を含め多くの研究者が参加し, 活発な質疑応答が行われた。(大泉 嶺 記)

## モンゴル社会保険実施能力強化プロジェクト・メンバーへの研修

モンゴル国と国際協力事業団 (JICA) が実施している「モンゴル社会保険実施能力強化プロジェクト」の一行が5月16日に表敬訪問のため, 翌17日に人口および社会保障に関する研修を受けるため来所した。このうち研修は社人研「モンゴル『社会保険実施能力強化プロジェクト』支援」プロジェクトの一環として行われた。当日は順番に「人口データ・人口統計~人口統計の基本的概念~」(筆者), 「年金資金が経済発展に与える影響」(佐藤格・社会保障基礎理論研究部長), 「高齢者の生活と年金」(小島克久・情報調査分析部長) について講義が行われ, 質疑応答も活発になされた。

(別府志海 記)